

土岐川・庄内川流域治水の広報活動の取組

渡邊 菜月¹・坂井 文也¹

¹庄内川河川事務所 調査課 (〒462-0052 愛知県名古屋市中区福徳町5-52)

庄内川流域では、東海豪雨から20年を経た2020年7月に全国に先駆けて「庄内川流域治水協議会」を設置し、翌年3月に「庄内川水系流域治水プロジェクト」をとりまとめた。流域治水プロジェクトの取組を実効性のあるものにするためには地域住民等の理解を得ることが重要であるが、住民に対して「流域治水」が十分に知れ渡っているとは言い難い。本稿では、土岐川・庄内川流域治水を広く周知・PRするための積極的な広報活動の取組について報告する。

キーワード 庄内川水系、流域治水、ロゴマーク、シンポジウム、自由研究

1. はじめに

近年、気候変動に伴う降雨量の増加や海面水温の上昇等による水災害の頻発化・激甚化が懸念されており、令和元年東日本台風や平成30年7月豪雨等、激甚な水害が頻発している。このような水害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組に加えて、流域に関わるあらゆる関係者（国・県・市町・企業・住民等）が主体的に治水に取り組む社会の構築、すなわち「流域治水」への転換を進めることが求められている。

庄内川流域は日本経済を支える産業集積地域である反面、日本一のゼロメートル地帯を有する水害リスクが高い地域である。東海豪雨（2000年9月）では、未曾有の都市水害となった苦い経験があり、東海豪雨を風化させることなく当時の教訓を継承し、地域とともに事前防災対策を進めていく必要がある。

これらの背景を踏まえ、庄内川流域においては、全国に先駆けて2020年7月6日に「庄内川流域治水協議会」を設置し、2021年3月25日に協議会構成員・オブザーバー等の41機関で「庄内川水系流域治水プロジェクト」をとりまとめた。

一方で、住民に対して「流域治水」が十分に知れ渡っているとは言い難い。流域治水プロジェクトの取組を実効性のあるものにするためには、住民の理解を得ることが重要である。

本稿では、土岐川・庄内川流域治水を広く周知・PRするための広報活動について、これまでの取組状況と今後の展開について報告する。

2. 土岐川・庄内川流域治水協議会の概要

庄内川流域では、流域治水を推進するため、2020年7月6日に庄内川流域の関係自治体が一堂に会し、全国に先駆けて「庄内川流域治水協議会（2021年7月に「土岐川・庄内川流域治水協議会」へ名称変更）」（以下、「協議会」という）を設置した。

2021年3月25日の第5回協議会にて、流域市町（18市5町）・流域関係自治体・河川管理者・気象台・道路事業者・下水道事業者・電力事業者等による協議会構成員・オブザーバー等の41機関で、流域内の各市町、県、国が行う流域治水対策を「庄内川水系流域治水プロジェクト」にとりまとめた（図-1、写真-1）。

現在までに、協議会を10回、シンポジウムを1回開催している（表-1）。また、構成員・オブザーバーは計44機関となっている。

3. 2021年度の広報の取組

第6回協議会にて名古屋市より、地域住民の理解や参画を促すために、一般公募によるロゴマークの作成、シンポジウムの開催について提案があり、協議会構成員及びオブザーバーの賛同を受けて取組が実現した。

また、多くの方に「流域治水」を知って頂けるよう土



写真-1 庄内川水系流域治水プロジェクトとりまとめ記念撮影



図-1 庄内川水系流域治水プロジェクト【位置図】

表-1 土岐川・庄内川流域治水協議会の開催状況

		開催内容
第1回	2020年7月6日	・庄内川流域治水協議会の設立 ・庄内川水系流域治水プロジェクト【素案】提示
第2回	2020年9月14日	・庄内川流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】（案）提示 ・指定区間を含めた本会議の拡充
第3回	2020年10月13日	・リーディング地区での対策紹介 ・庄内川流域で行う流域治水の全体像の共有・検討 ・全体とりまとめイメージ及び今後の進め方確認
第4回	2020年12月14日	・各自治体の課題の抽出・検討状況報告 ・オブザーバーの位置付け明記（新規参画含む）
第5回	2021年3月25日	・「庄内川水系流域治水プロジェクト」とりまとめ 計41機関
第6回	2021年7月2日	・防災まちづくりに関する取組報告・グリーンインフラの観点の追加確認 ・ロゴマーク作成、シンポジウム開催の決定
第7回	2021年10月21日	・新規参画構成員（名古屋・岐阜地方気象台） ・オブザーバー（JR東海、環境省）の取組の共有 計44機関
シンポジウム	2021年11月20日	・流域治水 MOVIE 上映、基調講演、パネディスカッション・ロゴマーク決定
第8回	2022年1月31日	・ロゴマーク使用規程・使用ガイドラインの策定
第9回	2022年3月3日	・グリーンインフラの取組を追加、R3実施状況フォローアップ ・流域治水プロジェクトに基づく取組の「見える化」
第10回	2022年6月23日	・取組状況の共有・流域治水の自由研究企画案の確認

岐川・庄内川流域治水MOVIEを作成し、YouTubeにて公開した。具体的な取組は、以下のとおりである。

(1) ロゴマークの一般公募・作成

土岐川・庄内川流域治水について、民間企業や住民参画を促すことを目的に、流域治水を広く周知・PR するためのシンボルとなるロゴマークを一般公募した。フローを図-2に示す。

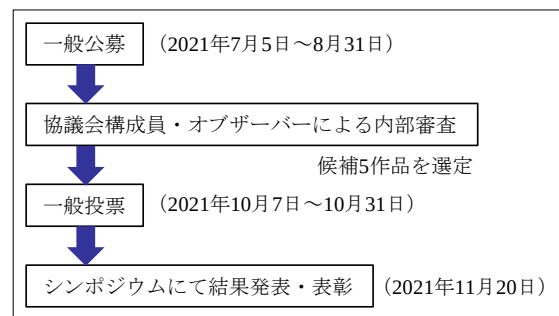


図-2 ロゴマークの一般公募フロー



図-3 ロゴマーク募集ポスター



図-5 土岐川・庄内川流域治水のロゴマーク

公募の時期は、学生が参加しやすいように夏期休暇の時期とした。より多くの作品を応募いただくため、職員による手作りのポスター（図-3）を作成し、協議会構成員及びオブザーバーの協力のもと市役所等の公共施設の人通りの多い場所にて掲示を行った。さらに、名古屋市内のデザイン系の大学等に伺い、企画について説明を行った。

その結果、学生や社会人等の様々な方から 79 作品の応募があった。協議会構成員及びオブザーバーの内部審査により候補 5 作品を選定し、一般投票にて採用するロゴマークを決定することとした（図-4）。一般投票は、電話回答または WEB 上の投票専用フォームにて回答する形式とした。

一般投票の結果は、2021 年 11 月 20 日開催の土岐川・庄内川流域治水シンポジウムにて発表し、古川雅典多治見市長より最優秀賞の表彰が行われた。

最優秀賞を受賞した作品（図-5）は、みんなで土岐川・庄内川を守ることをイメージし、流域の自然環境、防災施設、流域の関係者がタッグを組んで輪になって土



図-4 ロゴマーク一般投票呼びかけポスター



写真-2 ロゴマークの活用事例
(左 缶バッジ、右 愛知県春日井市における使用事例)

地を守っていくということをデザインしたものである。また、次世代を担う小中学生にも伝わりやすいよう、要素を擬人化させた親しみやすいイラストデザインとしたものである。

最優秀賞作品は、土岐川・庄内川流域治水のロゴマークとして活用している。シールや缶バッジ等を制作し、小学生等を対象とした現場見学会等で配布している。また、地方公共団体等においても幅広く活用されている（写真-2）。

(2) 土岐川・庄内川流域治水MOVIEの作成・YouTubeでの公開

これまでに、庄内川河川事務所では流域治水プロジェクトの取組を紹介するパンフレットを作成・配布しているところであるが、より多くの方に流域治水について理解を深めてもらうことを目的に、土岐川・庄内川の流域で水災害対策に取り組む関係者を紹介する動画「土岐川・庄内川流域治水 MOVIE」を作成した。

動画は「流域治水でひとつになろう」をテーマに、①



多治見市（ため池の活用）

庄内川河川事務所（枇杷島地区狹窄部対策）

名古屋市長（立地適正化計画の見直し）

名古屋大学防災サークル（防災教育）

(a) 流域治水に取り組む関係者及び取組を紹介（一例）



(b) YouTube にて公開中

図-6 土岐川・庄内川流域治水 MOVIE

- ・ オープニング（土岐川・庄内川流域治水 MOVIE、挨拶）
- ・ 基調講演「近年の気象災害について」
講師……………土井邦裕氏（NHK 名古屋放送局 気象予報士）
- ・ パネルディスカッション「土岐川・庄内川の流域治水の未来」
コーディネーター…NHK アナウンサー
パネリスト……………岸田晃彦氏（名古屋駅地区街づくり協議会 事務局長）
中田英雄氏（名古屋市副市長）
長谷川弘氏（庄内川・矢田川 5 学区水防連合会 会長）
秀島栄三氏（名古屋工業大学大学院 教授）
古川雅典氏（多治見市長）
蘆屋秀幸氏（国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所長）
- ・ 式典「土岐川・庄内川流域治水のロゴマーク発表」

図-7 プログラム構成

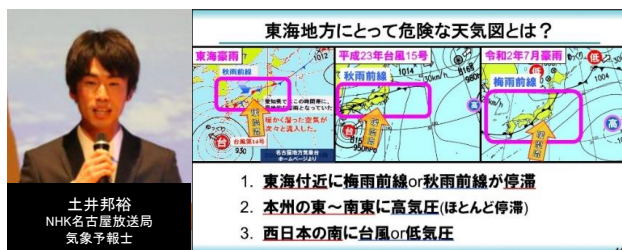


図-8 基調講演



図-9 パネルディスカッション

イントロ：治水の転換，②本編：庄内川流域の仲間たち，
③まとめ：流域治水でひとつになろう，の3つのパートから構成している。

①イントロは，流域に甚大な被害をもたらした東海豪雨の被害状況を映像で示し，流域治水の転換を訴えかけるよう工夫した。②本編は，自治体，民間企業，住民といった流域治水プロジェクトの各構成員・オブザーバーの中から，性別，年齢層も多様に出演者を選定し，あらゆる方々が流域治水の関係者であることを伝えられるよう，各構成員が自身の取組を紹介する形で構成した（図-6(a)）。③まとめは，不規則に並ぶ各機関のロゴマークを円形に並べて，流域の関係者がひとつになるイメージを表現した。

完成した動画は，世代・性別を問わず多くの方に視聴いただけるよう YouTube にて一般公開している（図-6(b)）。また，ハッシュタグについても「土岐川」「庄内川」「流域治水」「防災」の他，最近メディアなどで話題になっている「SDGs」を入れるなどの工夫をしている。

(3) 土岐川・庄内川流域治水シンポジウム開催

a) シンポジウムの概要

土岐川・庄内川での流域治水の考え方，取組等を流域住民と共有するため，2021 年 11 月 20 日に土岐川・庄内



図-10 シンポジウム参加者募集ポスター

川流域治水シンポジウムを開催した。プログラムは、図-7のとおりである。

シンポジウムのオープニングには、「土岐川・庄内川流域治水 MOVIE」を上映した。

基調講演(図-8)では、気象予報士・防災士である土井邦裕氏に講演いただいた。土岐川・庄内川の洪水における気象的な特徴、注意が必要となる危険な気圧配置などの紹介があった。また、災害から身を守るために、「マイタイムライン」の作成を呼び掛けた。

パネルディスカッションでは、流域治水に関係する国・自治体・民間企業・地域住民の方々において、それぞれの立場から、土岐川・庄内川流域治水の未来について、意見交換をした(図-9)。また、流域治水について事前に一般からの質問を募集し、その質問にパネリストが答えるようにすることで、地域住民と双方向のイベントとするよう努めた。

その後の式典にて、一般投票により決定した土岐川・庄内川流域治水ロゴマークを発表した。

シンポジウムの開催にあたり、ポスターを作成(図-10)し、協議会構成員等の協力のもとJRや地下鉄の駅等の人通りの多い場所に掲示・配布するとともに、庄内川河川事務所ウェブサイトやTwitter上でも公表した。シンポジウムの参加者は、企業や地域住民等約150名となった。

b) シンポジウムの効果検証

シンポジウムの効果を検証するため、シンポジウム参加者にアンケートを行ったところ、73名の方から回答が

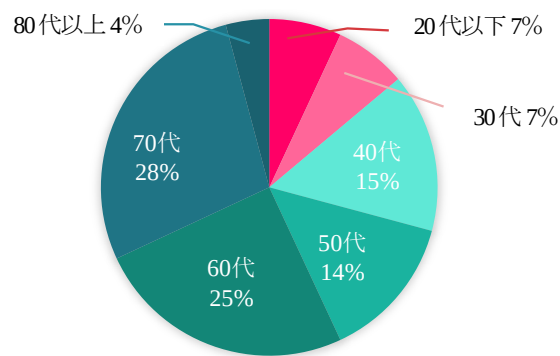


図-11 アンケート回答者の年齢別構成

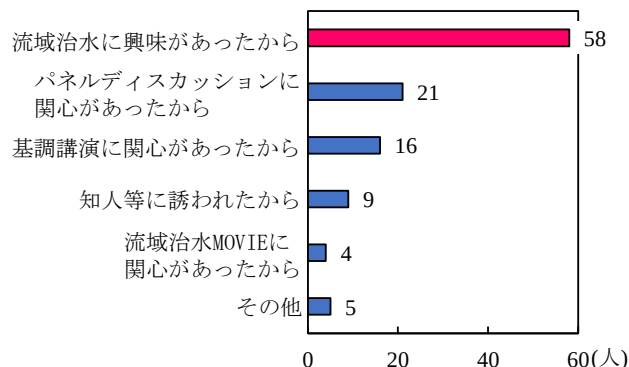


図-12 シンポジウムに来場した目的(複数回答可)

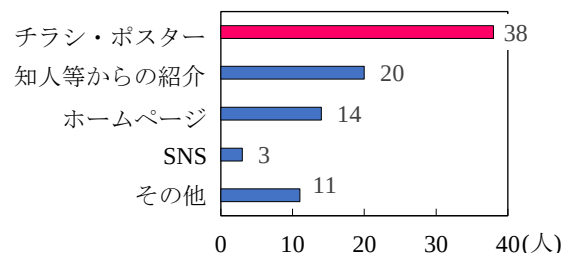


図-13 シンポジウムをどこで知ったのか(複数回答可)

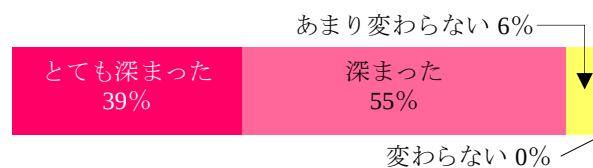


図-14 流域治水に対する理解度

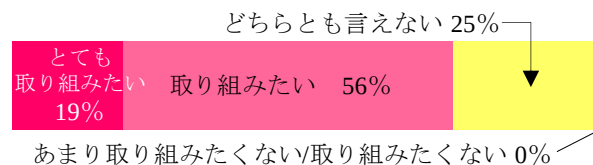


図-15 流域治水の活動に取り組みたいと思ったか

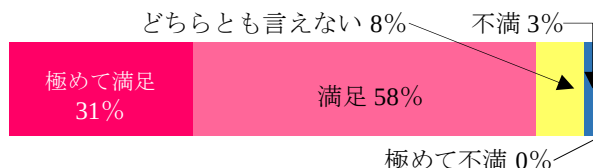


図-16 シンポジウムに対する満足度

あった。

アンケート回答者の年齢別構成を見ると40代以上が8割（うち60代以上が過半数）を占めており、30代以下の比率がわずか14%と非常に少ないことが分かった（図-11）。これは、東海豪雨を経験した世代は「流域治水」に対する関心が高い一方、大きな洪水を経験したことのない若者は「流域治水」に対する関心が低いということが要因の一つとして考えられる（図-12）。大きな洪水を経験したことのない若者に対して、「流域治水」について関心を持ってもらえるよう広報活動を行う必要があるとの課題が明らかとなった。

シンポジウムをどこで知ったかについては、図-13より、チラシやポスター配布による効果が高いと言える。

90%以上の方が、シンポジウムに参加して土岐川・庄内川の流域治水に対する理解が深まったと回答した（図-14）。また、「シンポジウムに参加して土岐川・庄内川の流域治水の活動に組み込みたいと思ったか」という設問については、75%の方が組み込みたいと回答した（図-15）。組み込みたい内容について、自由記述して頂いたが、

- ・時々の散歩等の際の堤防の異常確認など
 - ・内水氾濫ハザードマップの確認、家族との避難情報の確認など
 - ・マイタイムラインの作成
 - ・地域防災について、町内会と平行できる、協調できる新たな住民協力、を考えたい
 - ・水災害時には、自分の命は自分で守るを合言葉として活動を推進する
- 等の回答があった。

また、90%以上の方が、シンポジウムに対して満足との回答をした（図-16）。

シンポジウムを開催したことにより、地域住民の方にも「流域治水」を身近なものとして感じていただけたと考えられる。

4. 2022年度の取組

2021年度に開催した土岐川・庄内川流域治水シンポジウムにおいて、若い世代の参画を促すことが課題であるとの意見があったことから、2022年度は、若い世代が流域治水について考え、流域治水の取組へ参加する機会を作り出すために自由研究の募集を行っている。

(1) 土岐川・庄内川流域治水の自由研究の募集

流域治水に関する理解・親しみをってもらうことを目的に、夏休みに合わせて土岐川・庄内川の流域治水に関わるテーマで自由研究を募集した。

自由研究の募集にあたって、小・中学生にも流域治水とは何かを理解してもらえるよう、表現を工夫したポスターを職員が作成し、協議会構成員・オブザーバーに掲



図-17 自由研究ポスター

示を呼び掛けた（図-17）。表彰については、小・中学生の関心を得るために、各首長の賞を設けたり、最優秀賞には、副賞として一日庄内川河川事務所長体験を設けたりした。

そして、小・中学生がターゲットであるため、多治見市と名古屋市北区、東区の校長会にて説明を行い、応募の働きかけをし、各校の児童にチラシを配布した。さらに、協議会の構成員、オブザーバーに協力いただき、自由研究の一助となる見学可能な現場や施設を公表した。

8月現在、自由研究を募集しているところであり、現時点で報告できる状況ではないが、取り組み状況については事務所ウェブサイトにて公表していくことを予定している。

5. 今後の展開

これまでに実施した流域治水の広報活動の取組を通じて、取組に参加した住民に対しては、土岐川・庄内川の流域治水について理解が得られたと考えられる。しかし、これまでの取組に参加した住民は限定的であるため、広く認知されたいとはいえない。

今後、流域治水に対する認知度を上げるために、SNSを活用し、流域治水の取組について発信することや、小学校への防災教育や自由研究の募集を継続的に実施することが必要であると考えられる。

謝辞：最後に、土岐川・庄内川の流域治水推進にご尽力頂いた皆様、連携をとらせて頂いた自治体をはじめとした関係者の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。